

安倍政権 漢字1文字で表すと…

衆議院が28日解散した。前回総選挙から政治の在り方を考えさせられた2年10カ月。西三河の有権者7人に、安倍政権の印象を漢字1文字で書いてもらった。



古居さんは「失」

西尾市一色町の無職松井浩さん(モ)が選んだのは「進」。歴代首相が手を付けなかった事柄に、安倍晋三首相が道を開いたと考えた。「国連平和維持活動(PKO)で、宿営地の共同防衛や駆け付け警護をできるようにした。きれいで政治はできない。やるべきことを進める姿勢は評価したい」と話した。岡崎市康生通南の前田はな子さん(カ)は、



松井さんは「進」



前田さんは「驚」



倉田さんは「危」

市民団体代表古居敬子さん(カ)は、憲法改正を進めようとしたことで安倍首相への信頼が失われ、森友、加計学園の問題で説明責任を果たさなかったことに失望したとして「失」を選んだ。「すてきな憲法なのに、なぜ変えるのか理解できません。日本を戦争に向かわせているように感じます」と憤る。高浜市八幡町のパー ト倉田利奈さん(カ)は安全保障関連法を強引



大木さんは「不」



小野さんは「考」



新美さんは「信」

川谷市井ヶ谷町の愛知教育大大学院二年の大木春菜さん(カ)は、不安の「不」を選んだ。ニュースはあまり見ないが、安保法制に関する議論は耳に入ってくる。大学院では芸術の創作に励む大木さんは「平和だからこそ『きれいだね』といえる心の余裕が持てる。戦争ができる国になれば今ある暮らしが壊れてしまうのでは」と吐露した。岡崎市羽根町の会社員小野彰之さん(カ)は憲法改正や集団的自衛権などの議論を通して、自分や子どもの将来を考えさせられたとして、「考」を書いた。「財政や福祉制度はどうなっていくのか。政治に興味がなかったが、経済の好転も全く感じられない中、社会の展望を考える機会が増えた」と話す。「信」と書いた、岡崎市羽根町で時計店を営む新美明彦さん(カ)は「安倍政権を信じていいのか、信じない方がいいのか迷うけれど、代われる人がいなかったから信じるしかなかった」と語る。ただ「経済政策を推してきたが、この二年十カ月で景気が良くなった実感はない」と複雑な心境だ。

